

関西国際空港への 鉄道アクセス改善に向けて



前国土交通省近畿運輸局長 各務 正人

関西国際空港は、平成19年8月の第二滑走路の供用開始により本格的な24時間空港となり、西日本を中心とする国際拠点空港として、関西圏の国内線の基幹空港として、より一層重要な役割を担ってきております。

近畿運輸局としても、こうした関西国際空港の果たす役割にかんがみ、ビジット・ジャパン・キャンペーン等の観光振興、公共交通アクセスの充実・強化、深夜貨物便の利用促進等に取り組んできたところです。

しかしながら、昨年の金融不安に端を発する世界的な景気低迷、訪日外客数の大幅な減少など、社会経済情勢は大変厳しい状況に置かれており、今後、都市機能を強化し、関西の活性化、国際競争力の強化を図っていくためにも、より一層の取組を推進する必要があると考えております。

中でも鉄道は都市機能や交流を支える重要な社会基盤であり、ネットワークの高度化を図ることが重要と考えております。近畿圏では、昨年10月に中之島線、本年3月に阪神なんば線が開業するなど、社会ニーズに即した鉄道整備が進められてきたところですが、さらに、なにわ筋線等、大阪ビジネス拠点から関西国際空港をはじめとした高速交通ネットワークへのアクセス改善を図っていくことは、関西の更なる活性化等に向けて重要な役割を果たすものと考えております。

本年2月17日には、8府県知事・4政令市長の連名により「関西国際空港の機能強化に向けた緊急共同アピール」が出され、「国は、利用者利便

を向上させるため、関空へのアクセスについて改善を図ること」等の要望を頂きましたが、この緊急共同アピールに関し、2月20日、大阪府知事が国土交通大臣を訪問された際、国土交通大臣より、「なにわ筋線等、大阪ビジネス拠点から関西国際空港をはじめとした高速交通ネットワークへのアクセス改善方策の実現に向けて、国土交通省は大阪府をはじめ地元自治体や関係事業者等とも連携して検討を進める」と話をさせていただきました。

さらに、3月10日に開催された経済財政諮問会議において、国土交通大臣より我が国の成長力強化に向けた取組を説明した際にも、関空～都心～新幹線を結ぶ鉄道アクセスの改善について話をさせて頂いたところです。

こうした要望や国土交通大臣の説明等を踏まえ、近畿運輸局では、4月17日に「関西活性化に向けた今後の鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会」を開催し、大阪府知事、大阪市長をはじめ、経済界の代表、鉄道事業者や関西国際空港株の社長より今後の鉄道ネットワークのあり方についてご意見を頂くとともに、今後、実務者レベルの検討会を設置し、必要な調査を実施することについてご了解を頂いたところです。

これを受け、近畿運輸局としては、検討会において整備計画案、整備効果、事業性等の具体的な調査・検討を進めていくこととしております。関西国際空港の利用促進、関西の更なる活性化や国際競争力の強化が図られるよう、今後とも精力的に取り組んで参りたいと考えております。